

府高教 ニュース

2020年8月31日 (月)

速報 No. 2

発行所：大阪府立高等学校教職員組合
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11
大阪府教育会館707号
☎06(6768)2106 FAX 06(6768)1675
http://osaka-fuko.dyndns.org/
eメールosakafko@jn3.so-net.ne.jp

府教委、「大阪市立高校府立移管の計画(案)」を決定

市立東淀工業・市立泉尾工業・市立生野工業の3校を統廃合

道理のない移管・高校つぶしやめよ

府教委は、8月31日に開催した教育委員会会議で、「大阪市の高等学校等移管計画(案)」(以下「計画案」)を決定し、「2021年1月の教育委員会会議で最終決定する」としました。

「計画案」のおもな内容

◆2022年(令和4年)4月に全校を移管

「計画案」は市立高校全校を2022年4月に移管し、府立学校条例に基づいて運営するとしています。

移管後の学校名については、扇町総合高校・南高校・西高校の3校を統廃合し2022年4月から扇町総合高校の校地・校舎に開設される新校は「桜和高校」、枚方市にある大阪市立高校は「いちりつ高校」、その他は基本的に現在の校名のままとしています。また、工芸高校に併設されているデザイン教育研究所は、府立に専門学校がないことを理由に、移管は行わず大阪府が運営するとしています。

◆移管を契機に再編整備ねらう

「計画案」には、移管に伴う「再編整備の方向性」も示されています。普通科系の高校は、基本的に現状のまま移管とされていますが、東高校、大阪府立高校の英語科、理数科については、「移管後に府立との整合性を検討」、汎愛高校の武道科については「体育科に一本化する」とされています。また、統廃合される扇町総合高校・南高校・西高校は2022年4月に募集停止、在校生は新校が開設される扇町総合高校の校地・校舎に移るようになっていきます。

商業系の高校は、そのまま移管とされていますが、「ここ数年の志願状況を踏まえ、各校の魅力化を図る」とされ、大阪ビジネスフロンティア高校は「より高い英語運用能力の習得をめざし、より進学に特化」、淀商業高校は「地域に密着した地域ボランティア等」、鶴見商業高校は「産業界・地域コミュニティとの連携、商品開発等」、住吉商業高校は「キャリア教育の充実、観光ビジネス」などがあげられています。工業系の高校は、都島工業高校、工芸高校については現状のまま移管とされていますが、泉尾工業高校、東淀工業高校、生野工業高校の3校は「再編整備の対象校」とされ、「移管後、新工業系高校を開設する」とされました。募集停止の時期は「今後検討」となっています。また、都島工業高校は、移管後早い時期に総合募集制に改編するとされています。

中高一貫校の咲くやこの花、水都国際は、現状のまま移管とされていますが、中学校の通学区域は、現在の「大阪市内」を2022年度選抜から「府内全域」に拡大するとしています。

昼夜間単位制の中央は現状のまま移管、夜間定時制は、現在独立校となっている都島第二工業高校、第二工芸高校を、それぞれ都島工業高校、工芸高校の「定時制課程総合学科」として併置するとしています。

また、移管した学校については、2023年度選抜から府立学校条例の「3年連続定員に満たなければ再編整備」の規定を適用するとしています。

大阪の高校を守る会のつとめにも全力を！

大阪市立高校の府立への移管については、昨年9月に突然マスコミ発表され、今年2月に「中間報告(案)」が出されましたが、移管することに教育上の必要は全くなく、もっぱら維新の会がねらう「都構想」の既成事実化のために、歴史と伝統ある市立高校を府に丸投げするものであり、何の道理もありません。しかも、移管を契機に高校つぶしがねらわれていることはきわめて不当です。府高教は、「大阪の高校を守る会」に連帯し、道理のない市立高校府立移管・高校つぶしに反対する取り組みに全力をあげます。

子どもたちの学ぶ権利をまもれ！

府立移管・高校つぶしに反対する決起集会

■日時 9月26日(土) 午後2時～4時
■場所 東成区民センター6階・小ホール

※地下鉄「今里」下車3分